

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970103129		
法人名	医療法人・健和会		
事業所名	グループホームふれあい東九条		
所在地	奈良県奈良市東九条町886-1		
自己評価作成日	平成22年5月6日	評価結果市町村受理日	平成22年7月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成22年5月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「人との温かいふれあいの心」を事業所の理念として掲げているので、家族のように寄り添い、喜びや楽しみ、日々満足感のある生活をスタッフと共に共有していただけるよう心がけている。日常生活の中でも季節感を味わっていただけるように、ホーム内の装飾は季節ごとに利用者と共に手作りし飾り付けを行い楽しんでいる。手作り作品の一部をふれあいの里の展示会に出品もしている。ホーム横の小さな花壇には季節の花や野菜を植え、手入れ方法を教わったり、収穫を楽しんでいただいたりしている。また、野菜はその日に料理し食していただき、お花は食卓や部屋に飾り喜んでもらっている。家族様やボランティアさんの協力で催しも充実させている。入居時に個人別のアルバムを用意し、行事や生活の様子など収め思い出作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な雰囲気大切に、毎朝のラジオ体操以外は特に決められた日課はなく、入居者の持っておられる能力を活かしながら、掃除や食事の準備など生活の一部として自然に参加出来るように配慮されています。また、ペットボトルを用いた体操や足踏み体操を行ったり、ボランティアの協力のもと、絵画や書道など楽しみの時間をとるなど、ほどよい刺激のある生活を提供されています。2ユニットあるグループホーム間を自由に行き来でき、なじみの人間関係が築きやすく、入居者が思い思いに行動され、ゆったりと過ごされています。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念でもある「人との温かいふれあいの心」を事業所の理念とし、地域とのつながりやホーム内でのふれあいを大切にしている。	ホーム内に法人の理念を基にした理念を掲げ、実践に活かす取り組みをされています。	地域密着型サービスの意義が理念に反映されていないと認識されていますので、意義を踏まえたホーム独自の理念の作成を検討され、職員全体で共有するための取り組みを期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の清掃などに参加し、住民の皆さんとの交流や中学生の職場体験、ヘルパー養成所の実習の受け入れなど行っている。	ホームとして自治会に加入し、職員が地域の清掃等に参加されています。また、体験学習や実習の受け入れを通じて、交流に努められています。	今後、入居者の地域活動への参加や、回覧板を利用した地域へのホームの情報発信を検討されていますので、積極的な地域交流の取り組みを期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生員さんや地域包括支援センターの相談にアドバイスしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議が開催され、情報は施設運営に反映されている。	入居者の家族、民生委員、地域包括支援センター・市の担当者との参加のもと、2か月に1回会議を開催され、意見交換し、出された意見はサービス向上に活かされています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員の運営推進会議の出席は年に1回ぐらいではあるが、必要時電話ないし出向くなどで問題解決を図ったり、アドバイスをもらったりしている。	運営推進会議の他、電話などで市担当者と連絡を密にされ、情報を共有し、連携を図る取り組みをされています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを基本にしている。職員が手薄な特別な場合は玄関を施錠することがある。	身体拘束に関する勉強会を実施し、職員全体の共有認識を図り、通常は正面玄関の施錠を行わない等の取り組みをされています。	ホームの立地が車道に面していることから、特別な場合は玄関を施錠することがあるとのことですが、今後、入居者の安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するための一層の取り組みを検討されるよう期待します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度からふれあいの里の研修に法律・虐待防止等が取り入れられたので受講後毎月行っている勉強会で皆が共有できるようにしたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見人制度を活用されていた方がおられたが、現在は対象者はおられない。なら高齢者・障害者権利擁護ネットワークのネット通信などで学ぶ機会がある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、運営規程などを用いて十分説明を行ない、納得していただいで契約していただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	代表者の運営会議の出席や利用者へのアンケート調査を行い、会議録の提示やアンケートの結果を献立に生かすなどしている。	運営推進会議の際に意見を聞く他、意見箱も設置されています。また、家族の訪問時にも要望等を聞くようにし、出された意見・要望等はミーティングで話し合い、運営に反映させる取り組みをされています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見交換、提案など聞き反映している。	毎月職員会議を開き、管理者・職員で意見交換を行い、運営に反映されています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健和会の就業規則に沿っている。昨年には介護職員処遇改善交付金制度を活用、又人事考課制度によりやりがい・向上心をもって働けるようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的な研修参加を呼びかけ、希望者は参加できるよう勤務など配慮している。今年度からふれあいの里の2年目、3年目、リーダーコースなど研修を受講予定。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ふれあいの里以外では地域包括支援センターの介護予防講座に参加したり、障害者施設の訪問販売の受け入れをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時から、時間をかけコミュニケーションを図り、入居後はホームの生活に早く慣れていただけるよう配慮する。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	環境変化を気にされている方が多いので面会や面会時間の自由など告げ、その都度要望などに耳を傾けるようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問理容、訪問歯科、往診など必要に応じて利用できる事を説明し対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはしていただく、お互いに助け合っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の援助が必要な時は依頼し、任せきりにはしないようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出の制限はしていないので続けていただけるよう、面会時お茶の提供や部屋でゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。	家族や友人の訪問の受け入れや、外泊支援等、本人の要望に応じた支援をされています。	基本的な面会時間の設定はありますが、面会や外出の制限はされていないとのことですので、今後、関係継続のためのより柔軟な支援への取り組みを期待します。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓の席はほぼ固定しているが席替えをしたり、お友達同士で外気よくしてもらったり。利用者相互間の関係は常に見守り、仲介役をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もお見舞い、面会など機会を設けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ沿うようにしているが、規則正しいリズムになるように働きかけている。	日々のかかわりの中で声をかけ、言葉や表情などから入居者一人ひとりの希望や意向の把握に努められています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様や利用者からの情報を共有できるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化や食欲、部屋で過ごされる時間など常に把握するよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント表から課題を出しケアのあり方をケアプランの案として家族様の同意を得ている。	入居者一人ひとりの課題を把握し、職員全員で定期的なカンファレンスを行い、本人・家族の意見も反映させながら、現状に即した介護計画を作成されています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は経過記録にその都度記録し、難題発生時はミーティングを行い、3ヶ月ごとにケアプランの見直しをしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	すべてのニーズに柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター主催の介護予防講座に出席したり、奈良市主催の菊展・燈花会の観賞に出かけている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を大切にしている、定期往診やインフルエンザ予防接種など近医にお願いしている。	本人や家族の希望に応じて入居までのかかりつけ医での受診の他、緊急時に備えて近隣の協力医療機関との連携もとられています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	責任者が看護師も兼任しているので医療連携体制をとっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医師・ケースワーカー・家族様と情報交換をしながら早く退院できるよう支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りマニュアルを作成している。家族様との話し合いをしながら、かかりつけ医・訪問看護など利用しながら、ホームでの見取りが出来た事例がある。	本人や家族の意向を重視し、医師、職員等が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるよう、随時意志を確認しながら、支援に取り組まれています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。随時勉強会をしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成しており、消防避難訓練を定期的に行なっている。地域への働きかけも更にすすめる予定。	災害時のマニュアル作成し、定期的に避難訓練を実施されています。また、スプリンクラーも設置される予定です。	災害時には、地域との連携が必要と認識し、近隣への働きかけを今後の課題とされていますので、協力体制の整備についての取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇教育等行い、日々指導している。	日々、ホーム全体で確認しながら、穏やかな口調で声かけを行う等、入居者の人格を尊重した対応を実践されています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を大切にし、自立支援を目指している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強要はせず、個人のペースを見守り支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の購入など手伝い、心がけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る人に出来ることを見守りながらしてもらっている。<野菜の下ごしらえ・盛り付け・食器洗い・食器ふきなど)	入居者の得意分野を活かし、役割分担しながら、食事一連の作業を職員と協働されています。また、個々の入居者に合わせて調理の方法も工夫する等、食欲を高め、食事を楽しむための支援をされています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立作成、食事・水分量のチェックを行っている。必要者は細かい量のチェックを行い不足の場合は支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは定着してきた。その方に応じた方法で行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表(24時間で)を記入し、個人に合わせた排泄介助をしている。	個々の入居者の排泄パターンに応じて援助の方法を考慮し、排泄の自立に向けた支援がなされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や運動不足になりがちのため、食材の工夫や毎朝の体操、外周の散歩、廊下歩行など行なっている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員配置の都合上、曜日、時間帯を決めている。その中で仲良し同士の入浴や、時間など出来るだけゆったり楽しく入ってもらえるように心がけている。	入浴の曜日や時間帯の設定はありますが、一人ずつゆっくり楽しんで入浴できるよう配慮する等の支援をされています。	入浴日や時間帯を設定されていますが、今後、夜間入浴等、入居者一人ひとりの習慣や意向に沿った入浴支援ができるような体制づくりを検討されることを期待します。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中部屋でゆっくりしたり、戸外のベンチで過ごしたり、花壇に花摘みに行くなど自由にしてもらっている。夜間は室温や布団の調整、電気毛布の使用などにより心地よい寝床を心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用・副作用など勉強会で学び、個々の方に応じた服薬支援を行なっている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティアをしていると思い込んでおられる方がおられ、「自分の仕事」とやりがいを感じられているのでほぼスタッフと同じぐらいの家事を手伝ってもらっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴・散歩は心がけている。外出・外泊は自由で家族様に協力してもらっている。休止していた外食・喫茶なども再開の予定。	入居者の希望や体調を考慮しながら、日常的に散歩されています。また、一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて、外食等の実施も検討されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方は買物の支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方には自由に使っていたらいい。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温・湿度の管理や、空気の入れ替えなどは気を配っている。リビングに昨年秋空気清浄機を設置した。リビング・廊下など季節を感じられるよう手作りの貼り絵・絵手紙など飾っている。	共用空間の室温等は快適に保たれ、季節を感じる入居者の絵や作品を飾る等、楽しく居心地良く過ごせるよう工夫されています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前のベンチ・リビングのソファなどで話をしたり、テレビを見たりゆっくり過ごしてもらっている。居室で友達同士過ごされることもある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具や小物類は使い慣れたもの・好みのものなど持ち込みを自由に行っている。	居室には、使い慣れた家具や好みの品が持ち込まれ、その人らしく居心地のよい居室作りを支援されています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	昼間使用している車椅子でも夜間は居室内に置かないとか夜間はトイレ内トイレ前を点灯しわかり易くするなど工夫している。		